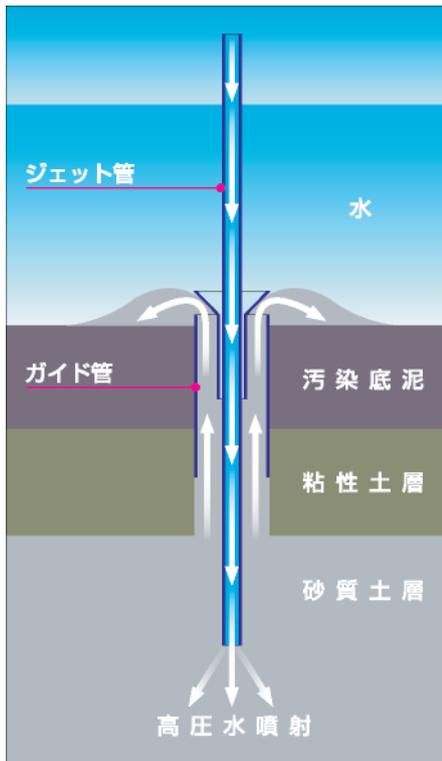


底泥置換覆砂工法の現地実証実験

大谷 英夫・小林 峯男・松木田 正義・上野 成三・勝井 秀博・岡田 和夫・岡田 美穂・友井 宏・丸山 邦男・駒井 篤

Field Experiment of A New Type of Sand Capping Method by Sand-Upwelling System

Hideo Ohtani, Mineo Kobayashi, Masayoshi Matsukida, Seizo Ueno, Hidehiro katsui, Kazuo Okada, Miho Okada, Hiroshi Tomoi, Kunio Maruyama and Atsushi Komai



工法の説明



覆砂状況（室内実験）



揚砂した砂



実証実験状況

研究の目的

湖沼や内湾などの閉鎖性水域では、アオコ・赤潮の発生や貧酸素化問題に悩まされています。水質浄化対策として汚濁底泥の浚渫や覆砂が実施されているものの、浚渫土の処理場・捨場や砂の入手が困難という課題を抱えています。平成12年11月および平成13年11月に長野県の諏訪湖で実証実験を実施しました。実験の目的は、本工法の実用化を目指し、揚砂量・覆砂範囲および、湖底が生物にとって望ましい環境に改善されること等を確認することです。

技術の説明

底泥置換覆砂工法は、底泥下の砂をジェット水流により浮上させ底泥を覆砂する新技術です。

主な結論

諏訪湖実証実験の結果、本工法は濁りの発生もなく実用的な工法であることを確認しました。また、施工後7ヵ月後に実施した環境調査の結果、底質改善効果の持続、底生生物の出現を確認し、環境改善にとって有用な工法であることを示されました。